

平成17年度病害虫発生予報第11号 (2月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

菌核病 (ピーマン)

Sclerotinia sclerotiorum (Libert) de Bary



被害株



発病部



幼果



菌核

被害と対策

本病は、幼果や茎などに水浸状病斑を形成し、褐変腐敗する。多湿条件下では表面が白色綿毛状のカビでおおわれ、後に黒色の菌核を形成する。幼果に発病すると早期に腐敗落下し、茎に発病すると、そこから上位の茎葉は萎凋枯死する。ハウスなどの施設で発生し、低温多湿で多発する。病原菌は多犯性であり、多くの植物を侵し、連作により多発しやすい。罹病部の接触等により伝染するので、病果や病葉は見つけ次第処分する。

☆ 予報の見方 ☆

- ① 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。
- ② 「発生の程度」は平年との比較を示しています。そのため毎年その月で高い数値が続いた場合にはその月の「発生の程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にして下さい。

平成18年1月31日

沖縄県病害虫防除所